

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
国際自然環境アウト ドア専門学校	平成16年1月16日	大瀧 則雄	〒949-2219 新潟県妙高市原通70 (電話) 0255-82-4450			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人新潟総合学 院	平成7年3月24日	理事長 池田 祥護	〒951-8065 新潟県新潟市中央区東堀通 1 番町494-3 (電話) 025-210-8565			
目 的	本校は、学校教育法に基づき、アウトドアスポーツ並びに自然環境教育の専門教育を通して、心身ともに健全なる青少年の育成を目指し、アウトドア産業界で活躍する人材の養成、ならびに地域・社会に貢献できるリーダーシップ力のある人材輩出をすることを目的とする。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
文化・教 養分野	文化・教養 専門課程	山岳プロ学科 (3 年制)	3年 (昼)	3026単位時間 (又は単位)	平成19年文部科学 大臣告示第20号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	448単位時間 (又は単位)	614単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	1072単位時間 (又は単位)	1048単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
45人	35人	5人	0人	5人		
学期制度	■前期：4月11日～7月29日 ■後期：9月26日～2月16日			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について ・各科目の成績は、出席率、授業態度、科目終了時の考査、確認テスト、提出課題、検定取得状況、大会成績等の資料によって評価する。 ・出席率が80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 ・成績評価A、B、C、Dの4段階、およびPとする。 ・A (優) B (良) C (可) D (不可) P (認定)	

<p>長期休み</p>	<p>■学年始め：4月11日 ■夏 季：8月1日～9月25日 ■冬 季：12月12日～1月4日 ■学 年 末：2月16日</p>	<p>卒業・進級条件</p>	<p>(進級要件) ・要出席時間数の 80%以上出席していること。 ・1 年次又は 2 年次に開講された科目において、全て C 以上、または P の科目評価を受けていること ・授業料、実習費等の必要な費用が納入済であること。 ・その他、生活行為等において問題がないこと。 (卒業条件) ・全年次の要出席時間数の 80%以上出席していること。 ・全年次に開講された科目において、全て C 以上、または P の科目評価を受けていること。 ・授業料等の必要な費用が納入済であること。 ・卒業要件に含まれる検定に合格していること。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>■クラス担任制 (有) 無) ■長期欠席者への指導等の対応 学科主任、クラス担任による定期的な連絡、面談と保護者との連携による対応の協議。</p>	<p>課外活動</p>	<p>■課外活動の種類 ・地域行事への参加 地元自治会（原通自治会）の主催する「風の子運動会」「風の子フェスティバル」等への参加。 ・ボランティア活動 「斑尾高原トレイルランニングレース」における大会運営ボランティア。 ■サークル活動 (有・無)</p>
<p>就職等の状況</p>	<p>■主な就職先、業界等 ・登山、アウトドア用品の製造、小売業 ・登山に関連する旅行業界 ・登山、アウトドアツアーに関連するガイド業 ・公務員(消防、警察) ■就職率※¹100% ■卒業者に占める就職者の割合※²67% ■その他 (任意) (平成27年度卒業者にに関する平成28年3月時点の情報)</p>	<p>主な資格・検定</p>	<p>(公社) 日本山岳ガイド協会 登山ガイドステージⅡ</p>

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 0名 ■中退率2.4%</p> <p>平成25年4月1日在学者35名（平成25年4月入学者を含む） 平成26年3月31日在学者34名（平成26年3月卒業生を含む, 学内転科1名） 平成27年4月1日在学者42名（平成27年4月入学者を含む） 平成28年4月1日在学者35名（平成28年4月入学者を含む, 学内転科4名）</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更</p> <p>■中退防止のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科主任、クラス担任による問題の把握と共有 ・必要に応じて個別面談の実施、保護者との協議 ・学生カウンセリング制度を活用したカウンセリング
<p>ホームページ</p>	<p>URL: http://i-nac.ac.jp</p>

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

①教育課程編成委員会の設置による教育課程の編成と改善

職能団体である(公社)日本山岳ガイド協会や業界企業の役職員の参画により、業界の動向や求められる人材ニーズに対応した教育課程を編成し、継続的な改善に努めている。

②職能団体による課程認定および連携科目の開設

(公社)日本山岳ガイド協会の「登山ガイド」の養成校として課程認定を受けており、教育課程の改善について定期的に協議を行っている。また、ガイド協会所属の現役ガイド講師による「登山ガイド検定対策実習」を設置し、人材ニーズの変化に素早く対応できる体制の構築に努めている。

③企業へのヒアリングによる業界ニーズの把握

卒業生の就職先企業の役職員を中心に、業界ニーズを把握するためのヒアリングを実施している。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名前	所属
畠山 浩一	公益社団法人 日本山岳ガイド協会 理事
萩原 浩司	株式会社山と溪谷社 山岳・図書出版部 部長、主幹
大瀧 則雄	国際自然環境アウトドア専門学校 学校長
松井 茂	国際自然環境アウトドア専門学校 副校長／教務部長、山岳プロ学科
鷲見 徹	国際自然環境アウトドア専門学校 山岳プロ学科 主任

(開催日時)

第1回 平成28年9月 予定

第2回 平成29年2月 予定

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

①職能団体との連携科目の開設

(公社)日本山岳ガイド協会所属の現役ガイド講師による「登山ガイド検定対策実習」を設置し、実践的かつ専門的な職業教育を実施している。

②インターンシップ実習の開設

自らの専攻、将来のキャリアに関連する就業体験を行うインターンシップ実習を、以下の目的のもとに必修科目として開設している。

- ・ 学習意欲の喚起と学習目的の明確化
- ・ 高い職業意識を持った職業人や創造的人材の養成
- ・ 専門分野での実務能力の向上
- ・ 専門学校と産業界・地域社会との交流と相互理解

科目名	科目概要	連携企業等
登山ガイド検定対策実習Ⅰ、Ⅱ	公益社団法人日本山岳ガイド協会が認定する「登山ガイド・ステージⅡ」資格を取得するにあたり、当該資格にふさわしい知識、技術、経験が備わっているかどうかを、協会試験委員会検定員に確認してもらい、不足している点があれば、指導、課題設定を行ってもらう実習。前期に関しては主に自然解説技術、ルートガイディングに関して。後	(公社)日本山岳ガイド協会

	期については安全管理、ルートガイディングについて指導を行っている。	
インターンシップ 実習	登山に関わる各種業態（登山用品店、登山ツアー会社、ガイド会社など）で実務を経験することにより、実際の仕事に必要な知識、技術、経験を明らかにし、各自の進路希望に必要なスキルの習得の指針とする。	株式会社好日山荘、ICI 石井スポーツ、KOKK ハミングツアー、アルパインガイド・ノマド、アルプス・エンタープライズ、毎日企画サービス、アドベンチャーガイズ他
登山ガイドインターンシップ	登山ガイドの職能に関わるツアー、ガイドにアシスタントとして関わり、ガイドとしての実務経験を積む。学んだ知識、技術を実務で実践できるようになる。	長野県トレッキング協会、(有)自然派企画、志賀高原ガイド組合、アドベンチャーディバズ、(株)パワーゾーン、ガイド盤溪他

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

①専門分野への研修・教育の参加

担当授業、担当業務の質の向上のため、登山に関連する職能団体、その他団体の主催する研修に参加し、登山ガイドの職業実務に関する知識、技術の向上に努める。また、(公社)日本山岳ガイド協会との連携のもと、教員のガイド資格の取得にも取り組む。

②法人の実施する研修・教育への参加

法人が組織的に実施する研修に参加し、専修学校の教員に必要な資質の向上に努める。研修テーマは、就職指導、メンタルヘルス、対人コミュニケーションとプレゼンテーション、問題解決、マネジメントとリーダーシップ等である。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 28 年 3 月 1 日現在

名 前	所 属
畠山 浩一	公益社団法人 日本山岳ガイド協会 理事
伊野 亘	国立妙高青少年自然の家 所長
宮下 富男	妙高市原通自治会 会長
丸山 裕治	妙高市観光商工課 主査
多田 由希子	一般社団法人新潟アウトドア企画 事務局長
大瀧 則雄	国際自然環境アウトドア専門学校 学校長
松井 茂	国際自然環境アウトドア専門学校 副校長/教務部長
秋山 絹世	国際自然環境アウトドア専門学校 事務局長
鷲見 徹	国際自然環境アウトドア専門学校 山岳プロ学科主任
長野 康之	就職部長、自然ガイド・環境保全学科主任
田辺 慎一	アウトドアライフ学科主任/こども自然保育学科主任
服部 正秋	アウトドアスポーツ学科主任

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://i-nac.ac.jp>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://i-nac.ac.jp>

その他、学校運営状況をまとめた資料を作成し、求めに応じて提供している。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程山岳プロ学科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			登山実技Ⅰ	無積雪期、積雪期の山岳地域で、安全に登山を行うための技術を習得する。また、岩場などを含む登山道で活動できるように、確保技術、ナビゲーション技術等も学ぶ。	1通	144			○	
○			登山実技Ⅱ	無積雪期、積雪期の山岳地域で、安全に登山を行うための技術を習得する。また、岩場などを含むバリエーションルートで活動できるように確保技術・登攀技術等も学ぶ。	2通	288			○	
○			登山実技Ⅲ	無積雪期、積雪期の山岳地域で、安全に登山を行うための技術を習得するとともに、岩場の登攀やバックカントリースキーなどを含む幅広く活動できるようなる。3年次の認定ガイド資格取得にむけて、確実にナビゲーションスキルやガイディングテクニックを学んでいく。	3通	288			○	
○			クライミングトレーニング	クライミングウォールでテクニック向上を目的としたトレーニングを行い、ロープクライミング・ボルダリングの技術を向上させる。	1後	36		△	○	
○			山岳プログラム企画・運営	1年生対象のアルプス縦走実習をはじめとする各プログラムを企画・準備し、運営する。それぞれを充実した内容にするため、綿密な企画を立てるとともに、企画力のみならず、高いマネジメント力を身につけていくことを目的とする。	3通	72	○		△	
○			登山ガイド実践Ⅰ	リーダーシップを発揮しながら、安全面に配慮しながらガイディングを行う。また、旅行会社が募集する山岳ツアーもガイドとして携わる。	3前	40			○	
○			山岳研究	3年間の集大成として、各自が専攻する分野に関連したテーマを設定し作品、論文を作成する。	3後	72		○		
○			クライミング春合宿	外の岩場でクライミングの基本を学ぶ。基本的な安全管理の技術を習得し、自立したクライマーになることを目指す。	1前	24			○	
○			マルチピッチ基礎	クライミングで複数ピッチで連続登攀を行うための、基礎技術及び支点構築の技術を学ぶのを目的とする。	1後	16			○	

○		登山ガイド 検定対策実 習Ⅰ	日本山岳ガイド協会認定の「登山ガイド」 資格を取得するために、養成指導者との実 践的な活動を通して準備、学習する。	3 前	40		△	○
○		登山ガイド 検定対策実 習Ⅱ	日本山岳ガイド協会認定の「登山ガイド」 資格を取得するために、養成指導者との実 践的な活動を通して準備、学習する。	3 後	40		△	○
○		自然観察実 習	自然解説技術習得に欠かせない一般的な 山地・里山の動植物を観察し、生態系との つながりをも理解し、環境保全に対する意 識を高める。	2 前	40			○
○		高山植物同 定実習	自然解説指導技術向上の一環として、高山 に特有の植物を学ぶ。北アルプスを中心と したフィールドで観察し、同定スキルを高 める。	2 前	32			○
	○	山岳技術強 化実習Ⅰ	岩場の登攀や沢登り、藪山でのルートファ インディングなど、難易度の高い登山を行 いながら、山岳での技術を総合的に高め る。	3 前	40			○
○		夏期縦走登 山実習	3年生の指揮のもとでしっかりとした山行 計画を立て、学生個々が役割を持ち、ひと つのチームとして安全な山行を行えるよ うになる。長期縦走によって山岳の技術 を磨く。	1 前	40			○
○		積雪期登山 実習Ⅰ	2、3年生合同で、冬山縦走登山を実施す る。厳しい自然環境の中であっても、安全 に行動ができ、統制のとれたチームで山 行ができるようになることを目的とする。	2 後	40			○
○		冬期山岳技 術強化実習	低温化での活動、生活や雪崩地形での行動 判断、アイゼン・ピッケルワーク、確保技 術など、雪山で必要とされる登山技術、ガ イド技術を実践から学ぶ。	3 後	40			○
○		インターン シップ実習	自然産業分野に関わる職場での就業体験 により、専門分野での実務能力の向上と、 職業観の育成を図る	2 前	120			○
○		登山ガイド 業務インター ンシップ実 習	登山ガイドの職能に関わるツアー、ガイドに アシスタントとして関わり、ガイドとして の実務経験を積む。学んだ知識、技術を実 務で実践できるようになる。	3 通	80			○
	○	アウトドア スポーツ	四季を通じて各種アウトドアスポーツを 体験し、その特性を学ぶ。(カヤック、ラ フティング、クライミング、マウンテンバ イク等)	3 通	144		△	○
○		ファースト エイド演習 Ⅰ	消防機関が行う上級救命講習を中心とし、 CPR、AED、その他のがーストエイドスキ ルの習得を目指す。	1 前	8			○

○		生態学	自然界で見られる生きものどうしのつながりが長い進化の過程を経てどのように形作られてきたのかを解説し、自然界の成り立ちについて理解を深める。	1 前	18		○		
○		野外教育	野外教育の歴史や関連用語の整理や事例の紹介を通して、野外教育の概観を理解する。また、自然体験活動指導実践に向けて、指導法や安全管理等について学ぶ。	2 後	18		○		
○		フィールド観察	学校周辺での自然観察を通じて、生きものに関する基礎的な知識を得て、自然の仕組みについて理解する。	1 通	108				○
○		山岳基礎知識	登山の基本的な知識として、用具や生活術、ナビゲーション技術、山岳気象などについて学ぶとともに、妙高周辺の山について知り、自身の活動の幅をひろげる。	1 前	18		○		△
○		基礎体力トレーニング	基礎体力おもに持久力の向上を目的にして、全日本代表レベルのアスリートの指導のもとに学校周辺でトレーニングを行う。	1 通	36				○
○		森林生態環境	森林生態系や樹木の生態についての基礎的な知識を学び、生態学的な視点から「森を見る目」を養う。	1 後	18		○		
○		生物分類	生物分類技能検定 3 級資格を取得することを目的とし、そのために必要な生物の分類に関する知識を授業の中で伝え、試験の合格を目指す。	2 前	18		○		
○		自然ガイド基礎	自然解説に必要な野外での知識、インタープリテーション力を身につけるためのフィールドワーク。	1 通	108				○
○		保全生態学	生物を種の絶滅から救うために私たちが知っておかなければならないことを、最新の研究成果を盛り込みながら分かりやすく解説する。	2 前	18		○		
○		インタープリテーション	自然解説（インタープリテーション）を行う上での基本的な考え方、技法を学び、実際にインタープリテーションを実施する。	2 前	36		△		○
○		地球環境科学	地球環境問題を身近な問題として理解するとともに、自然産業分野に必要とされる基礎知識を身につける。	2 後	18		○		
○		動物行動学	動物の行動が自然選択のメカニズムを通じて進化してきた事実を解説し、生物の様々な行動も進化という観点から見るとよく理解できることを伝えます。	2 前	18		○		

○		森林生態保護	私たちが日々の暮らしの中で受けている自然の恵みを理解するとともに、森林が直面する様々な問題とその問題を解決するのに必要な方法を学ぶ	2前	18		○		
○		運動生理学	野外活動中に体の内部がどんな反応をしているのかを学び、登山活動、ノルディックウォーキング、森林療法などの効果について検討する。	2後	18		○		
○		自然公園法	人間と自然との関わりや、生態学等の発達による自然保護思想の展開と関係法の制定に至った経緯などを歴史的に概観し、自然公園法と都市公園法を中心に現在の自然環境を保全していくための法制度とシステムの概要を把握し、今後の活動に活かして行く事を目的とする。	2後	18		○		
○		キャンプ実習	野外教育の代表的なプログラムであるキャンプ活動に関する知識や技術を体験を通して学ぶ。日本キャンプ協会のキャンプインストラクター養成講習会を兼ねる。	1前	40				○
○		森林管理実習	日本の林業の実態と問題点を学ぶと共に、自然環境保全に貢献できるような森林管理のあり方を実践する。	1前	40				○
○		アルプス登山実習	山岳プロ学科3年生の指導のもと、日本アルプスで縦走登山を行い、日本を代表する山岳エリアに触れるとともに、登山の基礎技術と安全管理能力を身につける。	1後	40				○
○		雪上スポーツ	代表的なウィンタースポーツであるスキー、スノーボードの基礎技術を習得する。	1後	32				○
○		雪上キャンプ実習	雪上でのキャンプ技術の習得と様々な活動を通じて、雪の特性に触れるとともに冬期における山岳でのサバイバルスキルを身につける。	1後	40				○
○		バックカントリー実習	雪崩リスクマネジメントに関して学習し、バックカントリーでのスキー、スノーボード等、積雪期の野外活動に必要な技能を習得する。	2後	40				○
○		アウトドアスポーツ実習(MTB)	マウンテンバイクの基礎的な技能の習得とツーリングの実践を通して、マウンテンバイクの醍醐味を感じ、安全な楽しみ方を身に付ける。	3後	40				○
○		アウトドアスポーツ実習(フィットネス)	現代社会の中で健康志向が高まっている理由とその重要性を理解し、アウトドアスポーツから現代の健康問題について考える。	2後	40				○
○		アウトドアビジネス実習	アウトドアビジネスの実際について学び、自ら事業企画書を作成することを通して、「アウトドア業界で働く」「アウトドアを仕事にする」ことについての理解を深め、意欲を高める。	2後	40		△		○

○		自然公園実習	自然公園内のトレイル、景勝地、ビジターセンター等を巡り、自然公園に対する理解を深める。また、様々なビジターセンターやインタープリターの比較を通して、より良いビジターセンター・インタープリターとは何かについて考える。	2 後	40		△	○
	○	野生生物調査実習	日本の北限生息地である火打山で絶滅危惧種に指定されているライチョウの個体数調査を実施することを通して環境保全に関わる手法を学ぶ。	3 前	40			○
○		リスクマネジメント	自然体験活動におけるリスクマネジメントの考え方について理解し、活動の現場でどのようにリスクを見極め、対処していくかについて考察する。	1 前	32		△	○
○		ウィルダネスファーストエイド	緊急医療体系へと引き継ぐまでに時間のかかる状況での野外救急法を学び、さまざまな身体機能の問題や障害から引き起こされるトラブルや野外における環境やストレスからくる怪我や体調不良に対処する医療知識・技術を習得する。	2 前	40		○	△
		ルートセット実習	フリークライミングウォールでの課題作成、コンペ課題の設定からコンペ運営まで一連の流れを実践する。	3 前	40			○
○		PC演習Ⅰ	Word ソフトを利用した基本的な文書作成能力を身につける。 また、Word 文書処理技能認定試験 3 級の合格を目指す。	1 通	36			○
○		PC演習Ⅱ	エクセルを利用した基本的な表計算の能力を身につける。また、Excel 表計算処理技能認定試験 3 級の合格を目指す。	2 通	36			○
○		PC演習Ⅲ	PowerPoint を用いたプレゼンテーションの技法を習得する。また、PowerPoint プレゼンテーション技能検定初級の合格を目指す。	3 後	18			○
○		英会話Ⅰ	海外でコミュニケーションをとるのに必要な英語を学び、最低限の会話力を身につける。また、国際感覚を身に付けるために海外の文化・習慣についても学ぶ。	1 通	36			○
○		英会話Ⅱ	海外でコミュニケーションをとるのに必要な英語を学び、最低限の会話力を身につける。また、国際感覚を身に付けるために海外の文化・習慣についても学ぶ。	2 通	36			○
○		英会話Ⅲ	海外でコミュニケーションをとるのに必要な英語を学び、最低限の会話力を身につける。また、国際感覚を身に付けるために海外の文化・習慣についても学ぶ。	3 通	36			○
○		コミュニケーション技法	コミュニケーション手法を学び、自分自身の言葉で、自分の意思を複数の人に伝える能力を高める。コミュニケーション検定初級の合格を目指す。	1 前	18			○

○			就職実務	就職活動に必要な企業研究、自己PRの作成等の方法を学ぶ。また、模擬面接、筆記試験対策を行い実際の就職活動に向けた準備を行う。	2 後	18			○	
○			社会人常識 マナー検定 対策	(公社)全国経理教育協会認定資格3級受験のための対策講座。社会人としての基礎的教養を身につける。	3 後	16			○	
○			就職準備研 修Ⅰ	他者との関わりの中で、自分自身について振り返る。また、社会におけるコミュニケーションの重要性を理解する。	1 後	16			○	
○			就職準備研 修Ⅱ	「就職」について再確認する場とし、就職活動の心構えを学ぶ。	2 後	16			○	
○			ビジネスマ ナー研修	実社会で必要とされるビジネスマナーを身につける。	3 後	16			○	
○			国内旅行業 務取扱管理 者試験対策	国内旅行管理者資格取得にむけた試験対策授業。	1 前	36			○	
		○	国内旅行業 務取扱管理 者試験対策 集中授業	国内旅行管理者資格取得にむけた試験対策授業。(選択)	1 後	32			○	
○			ホームルー ム(1年次)	①実践行動学の授業を通して、自己理解、他者理解、コミュニケーション力を向上する。②実習、学校行事等のオリエンテーションにより、カリキュラムにおける実習等の体系的な位置づけを理解する。③業界や専門性の理解、進路を明確化する。	1 通	36			○	
○			ホームルー ム(2年次)	①実践行動学の授業を通して、自己理解、他者理解、コミュニケーション力を向上する。②実習、学校行事等のオリエンテーションにより、カリキュラムにおける実習等の体系的な位置づけを理解する。③業界や専門性の理解、進路を明確化する。	2 通	36			○	
○			ホームルー ム(3年次)	①実践行動学の授業を通して、自己理解、他者理解、コミュニケーション力を向上する。②実習、学校行事等のオリエンテーションにより、カリキュラムにおける実習等の体系的な位置づけを理解する。③業界や専門性の理解、進路を明確化する。	3 通	36			○	
○			特別授業 (1年次)	外部講師の講演を受講し、業界の仕事内容や専門スキル、人材ニーズを理解するとともに、社会人としての心構えを学ぶ。	1 前	18			○	
○			特別授業 (2年次)	外部講師の講演を受講し、業界の仕事内容や専門スキル、人材ニーズを理解するとともに、社会人としての心構えを学ぶ。	2 前	18			○	

○		特別授業 (3年次)	外部講師の講演を受講し、業界の仕事内容や専門スキル、人材ニーズを理解するとともに、社会人としての心構えを学ぶ。	3 前	18		○	
○		海外研修	海外の先進的取組を学習する。アメリカ・イロ-ストーン国立公園、マレーシア・ボルネオ島における研修のどちらかを選択し、1～3年次における任意の年次の後期に受講する。	後	80			○
				67 科目	3282 単位時間 (単位)			